

MAGiC HOUR

2025

10

「好奇心」つながれ!!



違いは間違いじゃない。

巻頭特集

問いとつながる

連載

世界とつながる
未来とつながる

Cover

古賀 叶望 / 菅野 颯稀

新田 海斗 / 三日月 凱

大里 未空 / 青山 未来 / 伊藤 碧泉

《フリーファッションウィーク限定》

03 Cover Voices

自分らしさをまとめて登校する日
服で語る私のスタイルと在り方



04 巻頭特集 問いとつながる

すべての生徒に可能性がある
ここは「どんな世界でも生きていける力」が
身につく場所

【教員対談】堀之内翼 × 菊池祐介(探究プロジェクト担当)
【教員座談会】大輪麻衣 × 坂口栄毅 × 田中亜由子(生徒指導部)



06 連載 世界とつながる

＼世界に5ヶ国、9校の協定校／
飯塚高校なら1年生から交換留学できる！
ニュージーランド留学の1年生インタビュー



07 連載 未来とつながる

「慶應義塾大学・九州大学連携授業」を起点にひらく可能性
「“若き科学者たち”の挑戦を応援したい」
慶應義塾大学大学院准教授／飯塚高校アカデミックアドバイザー 武田秀太郎さん
「自分だけの世界をつくりあげる創造探究の場として」
慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 篠原宣道さん

09 Key Players Conversation

大学生活を楽しむ卒業生2人が対談
今村一道さん(立命館アジア太平洋大学 3年生) × 村井天さん(関西大学 3年生)

10 Events Calendar

11月22日は「街なか学園祭」へ行こう
飯塚高校の10～12月のイベントカレンダー



11 Information

12 Next Issue



[2年3組] 新田 海斗
「シャツは古着で500円！
デニムはサッカー部の
移動着です」



[2年4組] 古賀 叶望
「クマのデザインがお気に入り。
普段の私服にも近い感じ」



Cover Voices

飯塚高校では、教育目標GLI(Global・Local・Individual)

に基づき、生徒一人ひとりが主体的に学び、
自分らしさを表現する取り組みを進めています。

その「GLIプロジェクト」の一環として5月に実施した

「フリーファッションウィーク」では、

制服に限らず思い通りの装いを選び、

自分をどう表現するかを考える機会となりました。

GLIプロジェクトを巻頭特集に据えた「MAGIC HOUR」10月号では、

フリーファッションウィークを再現したスタイルで

生徒たちに登場してもらいました。

服を選ぶ際にどんな思いを込めたのか、

自分らしさをどう表現したのかを、一人ひとりの言葉で紹介します。

主体的な自己表現のかたちをご覧ください。



[2年4組] 青山 未来

「ガーリーめなアイテムが好きで、
トップスのキラキラした感じが
気に入っています」



[2年4組] 大里 未空

「派手なコーデが好みなので、
色物に豹柄を合わせました。
豹柄は絶対どこかに入れたい!」



[2年4組] 伊藤 碧泉
「スカートのプリーツ感と
白黒の組み合わせが
気に入ってます。
水色スニーカーは差し色に」



[2年4組] 菅野 颯稀

「黒とデニムの組み合わせがお気に入り。
デニムは好きでよく履きます」

[2年3組] 三日市 凱
「シンプルコーデが好き。
デニムはサッカー部のもの」



問いつながる

飯塚高校 教員対談

動いて学び「変化をつくる人」へ GLI教育の挑戦

飯塚高校の教育理念「GLI(Global・Local・Individual)」は、伝統を基盤に社会とつながる学びを広げています。今回の対談では、探究プロジェクト(特進コース)に関わるふたりの先生方が登場。街なか学園祭やGLIプロジェクトを通じて生徒が挑戦し成長する姿、そして教員が「時代の変化をつくる人」を育てる存在として果たす役割が語られました。



もっと
詳しく読む



※記事内容は取材当時
(2025年8月)のものです。

対話で引き出す「本音のかげら」



生徒が言葉にできない思いを引き出すには、普段の会話が大切です。声のトーンや雰囲気から本音を感じ取り、「間違えてもいい」という安心感を与えることを心がけています。

その姿勢は本当に学びになります。私は最初の授業で「高校生活では必ず何かに挑戦してほしい」と伝えています。自らもチャレンジャーであり続けることで、生徒に挑戦する姿勢を示したいのです。



伝統と挑戦を重ねる教育



校訓「熱・力・誠」は、飯塚高校における人格形成の揺るぎない土台です。その上に教育理念「GLI」を重ね合わせることで、伝統を大切に守りながらも、新しい時代に即した学びや挑戦が実現できています。

「外に出て学ぶ」活動が増えています。海外交流やさまざまな大学・企業・組織と連携した学びなど、経験を通じて知識を深める取り組みが進んでいます。どのコースも「動いて学ぶ」を基盤にした設計になっているのが大きな特徴です。



街なか学園祭で育まれる内発的な動機



飯塚高校は「内発的な動機」を大切にしています。勉強と社会のつながりを実体験で体感できるのが大きな特徴です。学園祭では企画や販売に挑戦するだけでなく、地域の方々の応援に触れ、「自分も何かを返したい」と思う生徒もいます。点数ではなく、その先の社会を意識することで、進路や夢を見つける生徒が実際に生まれています。

本当にそうですね。街なか学園祭は生徒にとってビジネスや企画の経験になると同時に、地域の方々に飯塚高校の取り組みを知っていただける大切な場です。学校の魅力を地域に開きながら、生徒が未来を描く力を育てているのだと思います。



教員もチャレンジャー



校外活動や体験を広げつつ、勉強そのものもアップデートしたいと考えています。大学時代の仲間と数学のゲームを開発中で、苦手な生徒でも楽しみながら学べる「入口」を広げたい。また農業とテクノロジーを組み合わせ、地域の一次産業を題材にした新しい学びも構想しています。

重視しているのは「自ら問いを立てる力」です。問いを起点に実践し、振り返り、さらに問い直すサイクルを日常化したい。また国語と数学といった教科を横断し、社会課題と結びつけることで、生徒が世界に働きかける力を育てたいと考えています。



実践的学びの先に社会を見据える



活動を通じて「商店街の盛り上がりを一過性で終わらせず、継続性をどう持たせるか」を課題に掲げ、経済学を志す生徒もいました。学園祭は行事でありながら、生徒が社会課題に触れ、自分のテーマを見つける学びの場になっています。

地域課題に挑む経験は大学入試にも直結し、志望理由書の質を確実に高めています。行動を通じて、生徒は自分の進路をより明確に描けるようになります。



先生方の言葉から見てきたのは、「伝統の上に挑戦を重ね、時代の変化をつくる人を育てる教育」の姿。飯塚高校には、生徒が自分らしく挑戦し、社会につながる学びを実現できる環境があります。

飯塚高校 教員座談会

ノーチャイムデイに出前授業!?
GLIをベースに描く未来の学び

飯塚高校の教育理念「GLI(Global・Local・Individual)」は、授業の枠を越えて学校生活全体に広がっています。

今回の座談会では、ネクストプロジェクト(総合学科)や部活動に深く関わる3人の先生方に生徒の変化や成長、そして新しい学びのアイデアについて語っていただきました。



自由なメイクや服装を表現する日



ダンス部の女子生徒たちは、「メイクアップデイ」や「フリーファッションウィーク」で自由に装いを楽しみ、お互いを褒め合っていました。自分らしさを表現し、それぞれの個性を受け入れる力が育ったと感じます。

社会に出る準備としてフォーマルな身だしなみを学ぶ機会も設けてきました。そうした積み重ねが、今回のイベントにつながったと思います。生徒たちが互いを認め合う姿を毎日見ていました。



普段は制服指導が中心ですが、この期間は「自分をどう表現するか」を考える場になりました。やりすぎでも何もしないでもなく、バランスを工夫することを学んだと思います。「違いは間違っている、個性なんだ」と実感できた生徒も多かったようです。

人としての成長につながるGLI



体育祭で小学生とコラボした際、生徒たちは主体的に行動し、地域と関わりながら成長している様子でした(Local)。

フリーファッションウィークやメイクアップデイは、自分の頭で考えて表現する場。公の場であることやフォーマルさを意識したうえで、個性を発揮する力につながっています(Individual)。



グローバルとは、英語や海外だけを指すものではありません。異なる文化や考えに触れ、それを受け入れて自分の中で消化し、新たな知識や考え方につなげていくこと。正解はひとつではなく、他者から学び、よいものを取り入れることで自分の枠を超えて成長する生徒を多く見てきました(Global)。

ノーチャイムデイ、生徒が先生に!?



チャイムを鳴らさず、自分で時間を管理する「ノーチャイムデイ」をやってみました。また、生徒が得意分野を教える特別授業も実現したいと思います。

その授業で先生たちが生徒役になっても面白そう! ポケモンの授業など、生徒の個性を披露する場面にもなると思います。



さらに、高校生が中学校に出前授業を行うのもいいと思います。人に教える経験は大きな成長につながります。

やりたいことに夢中になれる学校



「自分が本気になれるもの、夢中になれるもの」があれば、将来は希望に満ちたものになります。飯塚高校で、自分のやりたいことに思いきり打ち込んでほしいです!

ダンス部を見ていても、未経験から挑戦する生徒は少なくありません。困難を乗り越える中で「やりきる力」が身につく、夢に向かって努力できる生徒に育っています。



勉強だけでなく、商店街での活動や地域ボランティア、街なか学園祭など、幅広い経験ができるのも飯塚高校の魅力です。多様な挑戦を通じて、高校生活をより深く楽しんでもらいます。

先生方の言葉から見てくると、GLIの理念を生かした「ここでしかできない学び」。飯塚高校には自分らしく挑戦し、夢中になれる3年間があります!

飯塚高校では、世界5ヶ国9校との交換留学制度を整えています。入学間もない1年生から挑戦でき、条件を満たせば費用は主に往復航空券代のみ。誰にでも開かれたチャンスがあるのが大きな魅力です。

2025年夏、ニュージーランド(以下、NZ)・ランギオリハイスchoolに留学したひとりが、特進グローバルコース1年生の原田佳音里さん。姉も飯塚高校での留学経験があり、その背中に後押しされ挑戦を決めました。英語は得意ではなかったものの、「将来に必ず役立つ」と信じ、勇気を持って踏み出しました。

(本インタビューは留学中に実施しています)

もっと
詳しく読む



※記事内容は取材当時
(2025年8月)のものです。

英語は得意じゃないけど 世界に触れたい！ 1年生で叶えたNZ交換留学

〈特進グローバルコース1年生・原田 佳音里さん〉



決まったときはワクワク半分、不安半分でした。英語が得意ではなかったで、自分の英語が本当に通じるのかどうか心配だったんです。

NZに行ってみると驚きの連続でした。ホストファミリーの家の近くには馬や羊がいて、学校の敷地もすごく広くて、なんと牧場まであるんです。授業は1コマ50分で5コマくらい。食事の時間が2回あったり、法律やマオリ語といった日本にはない科目があったりして、本当に新鮮でした。

友達づくりも大きな一歩でした。パディの子(ホームステイ先の生徒)が友達を紹介してくれて、一緒にお昼を食べたり、日本のお菓子のグミを渡したり、折り紙で鶴を折ったりするうちに自然と打ち解けられました。

日本にいたときより英語がバツと出るようになって、文法が間違っていない「とにかく伝えよう」という考えになったのは大きな変化だと思います。

一番うれしかったのは、自分の気持ちが英語で相手に伝わったときです。「伝わった！」と実感できた瞬間が自信につながりました。今では前ほど緊張せず、落ち着いて英語を話せるようになってきています。

これまで挑戦を避けることがありましたが、留学を通して勇気を持てるようになりました。帰国後も積極的にいろいろなことに挑戦していきたいです。留学前には現地校やホストファミリーとZoomで話す機会をつくってもらえて、不安が和らぎました。留学中も先生方が定期的に連絡をくださるので、とても安心できています。

最後に、これから留学を考えている後輩のみなさんに伝えたいです。留学を経験すると、考え方や感じ方が本当に変わります。迷っているなら、思いきって挑戦してみてください。

1年生から挑戦できる環境と手厚いサポート——。

飯塚高校だからこそ実現できるグローバルな学びが、確かな成長を後押ししています。



飯塚高校では、慶應義塾大学や九州大学と連携した授業を通じて、在学中から高度な学びに触れられる機会を提供しています。こうした取り組みは、難関大学への進学を現実のものとするだけでなく、生徒の探究心や挑戦意欲を大きく育んでいます。

さらに、海外大学進学を視野に入れた、英語×テクノロジー×デザインを学ぶ「MITコラボ授業」など、世界とつながるプログラムも展開し、未来に向かって羽ばたく生徒を応援しています。今回は、慶大・九大連携授業を担当されている武田秀太郎先生、篠原宣道先生にコメントを寄せていただき、その学びの価値や可能性についてお話を伺いました。

大学との
連携授業を
詳しく知る



※記事内容は取材当時
(2025年8月)のものです。

解き放て！ 内なる“科学者”の心

近年の大学入試では、総合型選抜や学校推薦型選抜の比重が増し、研究発表や探究活動を通じて「自ら考える力」を示すことが求められるようになっていきます。つまり、知識の量だけでなく「問いを立て、答えを導く力」が今の高校生には不可欠です。

九州大学・慶應義塾大学では、この時代の変化にいち早く応えるべく、飯塚高校の皆さんに高大接続の先進的な学びを提供しています。

2024年度は、2年生の生徒一人ひとりが「なぜだろう？」と抱いた小さな疑問を出発点に、「音楽」「嘘」「教育」など自分で研究テーマを立て、仲間と共に考え、試行錯誤しながら答えを探し出す——まさに科学者の姿勢を示してくれました。

そして彼・彼女らはサイエンスキャッスルという学会にも挑戦し、果敢に学んだことを社会に発信してくれたのです。

気が清むまでいつまでも探究する。

納得できないことは納得できないと主張する。

飯塚高校の学生さんと接していると、子どもこそ、一番純粋な「科学者」なのだということを改めて感じます。

この挑戦を通じ、生徒たちが自らの可能性に気づき、進学への意欲や将来のビジョンを明確に描き始めてくれることを期待しています。保護者の皆さまも、「小さな科学者たち」の挑戦を温かく見守り、ともに応援していただければ幸いです。



武田 秀太郎さん

慶應義塾大学大学院准教授
飯塚高校アカデミックアドバイザー

自分だけの世界を つくりあげる 創造探究の場として

アカデミックワークショップを通じて感じるのは、生徒の皆さんがとても真剣に学び、自分の力を伸ばそうとしていることです。大学での研究は、決まった答えを覚えるのではなく、「なぜだろう？」と考え、自分の意見を持ち、それを形にしていくなかで活動です。

いち早くこうした体験ができることは、将来、皆さんが国内外の大学で学びたいと考えるときに大きな力になると期待しています。

この授業の特徴は、ただ先生から知識を教わるだけでなく、生徒自身が問いを立て、仲間と意見を交わしながら学びを深められるところです。

授業の中では、高校生ならではの新鮮な視点や柔軟な発想に出会うことが多く、私自身も大変刺激を受けています。

これからの授業では、皆さんに「未知の課題に向き合う力」を養ってほしいと考えています。

将来の社会では、正解がひとつに決まっていない問題に向き合う場面がたくさんあります。そのときに、自分の好奇心を信じて挑戦する姿勢こそが未来への扉を開きます。飯塚高校での学びを通じて、その第一歩をぜひ踏み出してほしいと思います。



篠原 宣道さん

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

Key Players Conversation

もっと
詳しく読む



※記事内容は取材当時
(2025年8月)のものです。

立命館アジア太平洋大学(APU)で国際関係(IR)を学ぶ今村一道さんと、関西大学経済学部で体育会サッカー部に所属する村井天さん。ともに探究プロジェクト(当時、特進II類)の卒業生として、2023年3月に飯塚高校を卒業しました。進んだ道は違っても、ふたりの共通点は「高校での経験が今の自分を支えている」という実感です。

卒業生対談 | APU 今村 一道さん × 関西大学 村井 天さん

飯塚高校での経験が、今の自分をつくっている

授業、部活・サークル…大学生活のリアルは？

今村 国際関係(IR)を専攻し、国際紛争や人権、環境問題など地球規模の課題を多角的に学んでいます。模擬国連や留学生との交流が進学のきっかけになりました。大学ではバレーボールサークルに所属し、120人のメンバーをまとめる役割を担っています。人をまとめる難しさを経験しながら、リーダーシップを培っています。



村井 関西大学では国際系テーマを扱うゼミに所属し、歴史と経済を組み合わせる学んでいます。体育会サッカー部では入部当初Bチームでしたが、夏にトップチームへ。身長やスピードで大学生のフィジカルの強さを痛感しました。朝7時からの練習と授業・バイトを両立しながら成長を感じています。

大学に入って成長したことは？

村井 大学で一番の成長は「他人に関心を持ち、応援できるようになったこと」です。関西大学には他力ゲテグリーを応援する文化があり、人のために行動する大切さを学びました。

今村 僕はサークル中心ですが、村井くんの話を聞き、スポーツが人を成長させる力を持っていると実感しました。人との関わりが、自分を形づくる基盤になると感じています。

飯塚高校での思い出を教えてください！

村井 飯塚高校を選んだのはクラブチームの監督の紹介でした。県大会決勝で得点を決めたことや、インターハイ予選でPKを外して落ち込んだ経験も忘れられません。でもそこから「冬の選手権に行こう」と気持ちを切り替え、2年連続で全国の舞台に立てました。

今村 部活動生が多いクラスで、文武両道に動く姿から刺激を受けました。僕自身は模擬国連に参加し、一国の代表として世界を考えた経験が、今の学びに直結しています。

飯塚高校で教わって、今も大事にする考え方は？

村井 監督から「感謝の気持ちを持ちなさい」と言われ続けました。親や仲間への感謝を忘れないことで、前向きに取り組んでいます。

今村 僕は「オープンマインドでいること」。固定観念に縛られず、相手に素直に聞ける姿勢は大学生活でも大きな力になっています。

将来どうなりたい？

今村 今は大学院進学や就職など可能性を模索中ですが、英会話教室でのアルバイトをきっかけに教員という道にも興味を持っています。

村井 僕はプロサッカー選手を目指しています。プレーで観客を沸かせること、そして「応援される選手」になることが目標です。



中学生・保護者へのメッセージ

今村 飯塚高校は英語や国際分野だけでなく、幅広い分野に挑戦できる学校です。入学時に進路がはっきりしていなくても、「好き」を見つけ、人として成長できる場所だと思います。

村井 先生方が個性的で面白く、県外生や留学生も多い環境で、多様な人と出会えるのも魅力です。僕自身、多くの出会いから大きな刺激を受けました。振り返っても、飯塚高校に通って本当に良かったと思います。

大学生活や将来の夢を語るふたりの言葉から、高校での経験が確かな自信になっていることが伝わってきました。飯塚高校は、進路がまだはっきりしていない人にとっては新しいきっかけと出会える場であり、明確な目標を持つ人にとってはその夢をさらに深め、力強く伸ばせる環境です。ここでの3年間は、必ず次のステージにつながる大切な財産になるでしょう。

立命館アジア
太平洋大学(APU)
アジア太平洋学部 3年生

今村 一道さん



関西大学
経済学部 3年生

村井 天さん



飯塚高校2025年 イベントカレンダー

Events Calendar

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
10 October 2025	28	29	30	1	2	3	4
				秋期休業(～10月5日まで) 筑豊地区私立高等学校入学試験合同説明会			オープンキャンパス (入試対策講座説明会)
	5	6	7	8	9	10	11
		後期始業式					立岩獅子舞 宮日祭 (新飯塚町内)
	12	13	14	15	16	17	18
	立岩獅子舞 宮日祭 (立岩町内)						
	19	20	21	22	23	24	25
						専攻科 推薦入試	
	26	27	28	29	30	31	1

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
11 November 2025		27	28	29	30	31	1
				5	6	7	8
				12	13	14	15
						自動車専攻科 合格発表	
						21	22
						28	29
						5	6
	30	1	2				

	Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
12 December 2025	30					5	6
	7					12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31	1	2	3

気軽に
来てね!

〈ネクストパティシエプロジェクト・製菓部〉

2009年・2022年に続く、3度目の日本一!

第17回 スイーツ甲子園 優勝(2024)

第18回 スイーツ甲子園 企業賞(パストリーゼ賞)受賞(2025)

冬期休業
(～1月7日まで)

SPECIAL
TICKET

街なか学園祭

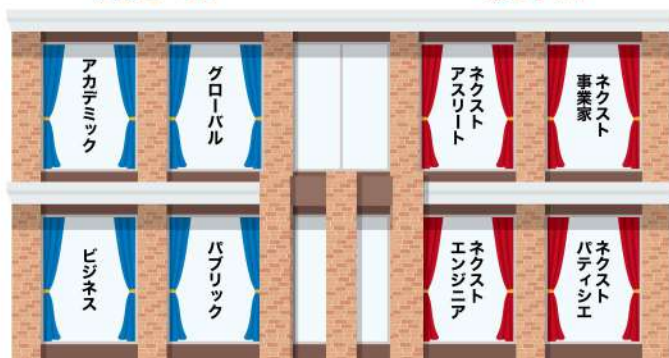
スペシャルチケット

詳細は街なか学園祭特集ページで

「街なか学園祭」
最新情報は
こちらから!



飯塚高校の学びはふたつの柱から広がります。「探究プロジェクト」と「ネクストプロジェクト」。さらに、実践的な学びを深める専攻科も設置しています。探究プロジェクトでは地域や社会、世界とつながりながら、自ら学び動く力を育みます。知性と思考力を磨き、行動力を培うことで、変化の時代を切り拓く力を養います。ネクストプロジェクトでは、自分の「好き」や「好奇心」を起点に、体験型の学びを深めます。地域や社会でのフィールドワークを通して、リアルな課題に触れながら、自分だけの未来をデザインする力を培います。どの道を選んでも、3年間の学びを通して得られるのは、変化の時代を自分らしく歩み抜く力。そして未来を切り拓く確かな自信です。



飯塚高校ではWebサイトを通じてさまざまなニュースを発信しています。授業や実習の取り組み、各コースの独創的な学び、地域とのつながりを深める活動、グローバルな挑戦、個々の生徒にフォーカスしたインタビューまで、学校の日常を幅広くお伝えしています。さらに、生徒主体で制作する月刊ニュースペーパー『飯塚タイムズ』も発行中! 生徒たちの視点で描かれる学校の今をご覧ください。



最新のニュースや『飯塚タイムズ』は、
右のQRコードから読めます!



巻頭特集 地域とつながる

開かれた学びを掲げる学校として――。

飯塚高校は、生徒が学校の外に飛び出し、
地域社会との関わりを大切にする学びを積極的に進めています。
商店街や企業、大学など多様なパートナーと連携し、
社会や経済を現場で体験的に学ぶことを重視しているのです。

その象徴が、2022年から毎年秋に開催している「街なか学園祭」。
飯塚高校発祥の地である飯塚市の
本町商店街・東町商店街を舞台に、
地域全体が飯塚高校を体感できる一大イベントです。

2025年は11月22日(土)に開催決定。
飯塚高校が掲げる「Global・Local・Individual」の三本柱のうち、
特にLocalを実践する取り組みであり、
生徒たちは教室を飛び出して
「身近な社会に関わり、コミットする力」を培っていきます。

準備や運営では商店街の方々を中心に直接やりとりを重ね、
社会の仕組みや人とのつながりを肌で実感。
思うようにいかない場面に直面することもあります、
自ら問いを立てて課題と向き合い、協働する力や責任感を育んでいきます。

街なか学園祭はひとつのイベントでありながら、
生徒一人ひとりが「地域の一員」として行動するきっかけとなり、学びを確かな成長へと変える場です。
次号では、この学園祭準備～本番を通じて生徒たちが得た経験や成長の姿をご紹介します。



GLI教育 /



連載 世界とつながる

英語が好き! 海外に興味がある!
その気持ちがあれば、チャンスは開かれています。
少ない金銭的負担で叶う、飯塚高校の交換留学

連載 未来とつながる

海外大学・国公立大学・難関私立大学への進学を叶える
「外に出て、動いて学ぶ」を大切にした教育の仕組み

Staff

編集長
嶋田 吉朗(常務理事/校長補佐)

ブランディングチームリーダー
中辻 喜敬(教員/サッカー部監督)

編集・ディレクター
池田 園子

Web担当
矢野 麻子

デザイナー
江口 学(White Product)

表紙・裏表紙撮影
帆足 慶一郎



IIZUKA HIGH SCHOOL